

# 「和」文化を体験しよう!

ますます国際化が進む現代だからこそ、良き日本の伝統・文化を大切にしたい!  
そんなテーマを胸にスクールコーディネーター広報委員会が、「和」文化の活動を体験取材!! その様子、その心を徹底レポート!

## 浮間中学校

『伝統文化親子茶道教室』  
2018.7.21 Sat

「ここは滝壺。“瀧 直下三千丈”。三千丈(すごく長い距離)もの滝がまっすぐ落ちてきて、みんなはその滝壺の周りにいます。

夏は暑いよね。でも、ここは冷房のおかげじゃなくて、この滝のおかげで、静かで、涼しくて…。そんな感じを味わっていただければいいかなって思います」



四季の趣を楽しむような、またその感性を刺激するようなお話から始まりました。「夏の暑い時には涼しさを感じるように。冬の寒い時には暖かさを感じるように。お軸やお花で、お部屋をしつらえます」



敷居を想定した「お客様出入口」の前で扇子を置き、両手をついてお茶室にお辞儀。畳に拳をついて軽く“にじって”敷居を越えて、再び膝前に扇子を置き、正客に一礼。こうして順番に席入りします。

菓子器を回されたらお隣に「お先にいただきます」の一礼。ご挨拶、懐紙の扱い、お菓子の取り方、箸の拭き方、食べ方…。ひとつひとつの所作に対して、流れに沿ってアナウンスのように指導が入ります。「お客」「お水屋」「お運び」互いに呼応し、タイミングを計る。場に漂う一体感は、まるでチームプレーのように感じられました。



《毛利先生へのインタビュー》

### 🍵 茶道を通して伝えたいこと

茶道は日本の伝統文化であり、総合芸術であると思います。所作が綺麗にできることだったり、お道具を愛でることだったり。お花やお香。あと書道も。お茶席の招待を出す時、お手紙もしたためるので。

このように包括的な体験を通して「季節感」や「美意識」、「おもてなしの心」などを感じ取っていただきたいと思っています。

### 🍵 年10回を通して学べること

「お点前」が出来るまでは望んでいません。でも「お客様」と「お水屋」と「お運び」、これをできるようにしています。

お正月は我が家で「初釜」を行うのですがいらっしやいませんか? 着物を着て、お炭、お料理、お濃茶、お薄…。一連のお招き、接待です。これに参加するために、今日のような一部分の練習をしています。

こういった「お茶事」をするためのお稽古です。その機会に出会える人は、実は数少ないのですが、ここに来ている子には機会があります。「お茶事」に呼ばれるということは、本来自分も席を持って、

夏は木権(ムクゲ)、冬は椿(ツバキ)。後ろにツンと尖っているのが縞草(シマアソ)。木権と縞草が今日の床の間のご馳走。目で見て楽しむご馳走です。

※お軸を含むお茶道具一式は、毛利先生の所有品です。

# 茶道

“呼ぶから呼ばれる”ものです。持ちつ持たれつ。通常はそう簡単にできることではないです。でもそんなこと言うとお敷居が高くてとつきづらいですよ(笑)。

### 🍵 嬉しいこと・やって良かったこと

大人はあまり感じ取れないことでも、子どもは感じ取ってくれたりします。学校ではできませんが、「炭点前」では、乾いた灰と濡れた灰との間に“景色”ができるのですが、この“景色”という言葉を使ってくれます。お香は“聞く”と表現してくれます。言葉で伝えていると、子どもたちはそういった言葉を自然に発してくれるようになります。大人はなかなかそうはいきません。

所作や作法を教えるだけでなく、その意味や心意気を伝え、季節や言葉への感性を育み、参加者同士の連帯感を自然に深めてしまう、そんな茶道教育でした。



### プロフィール

もうり まりこ  
毛利 万里子  
中学校教員として茶道部の指導にあたる。文化庁補助事業・伝統文化子ども茶道教室開催。伝統文化親子茶道教室、学校公開講座「茶道を始めませんか」を浮間中、赤羽岩淵中にて開催。海外留学生等の体験茶道、老人介護施設でボランティア呈茶等々。

### 活動概要

- 【参加人数】 通常15名で募集(今回は18名参加)
- 【対象年齢】 小学校4年生～中学校3年生まで
- 【活動日時】 年10回。土曜日9:30～12:00(12時には外に出るため11:30頃終了)

### 茶道教室 参加児童・生徒へのアンケート

#### ■ どうして参加しようと思いましたか?

- まだまだ分からないことがあるので来ました(西浮間小4年)
- 日本の文化をもっと知れたかったから(浮間小4年)
- 伝統文化に興味があったから・友達に誘われたから(浮間中1年)

#### ■ 当日の感想

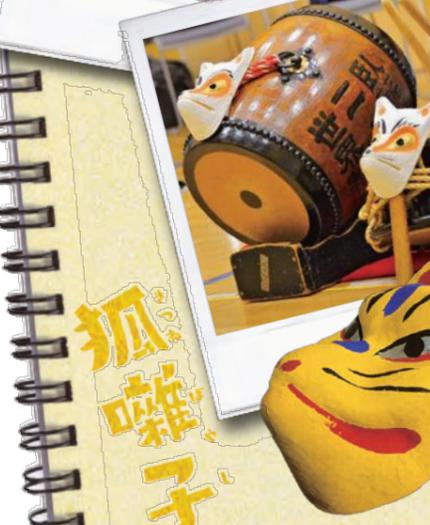
- この前よりもいろいろなことができるようになって良かったと思いました(西浮間小5年)
- 夏の茶碗や掛け軸の意味を知れたよかったです(浮間中1年)

## 王子小学校 『王子狐囃子』

2018.10.23 Tue / 11.6 Tue

王子小学校内、体育館脇の王子ホール。開始まで30分近くあるが、授業を終え児童が一人また一人と集まり始めた。

「宿題やろっ!!」無造作に置きラウンドセルからノートを取り出し、何やら書き物をしていたかと思えば、いつの間にかホール傍りに並ぶ和太鼓を叩いていた。他に「太鼓クラブ」でも習っているとのこと、感心するほど上手に叩く。児童にとって和太鼓はごく身近な楽器で、馴染みの深い環境のようだ。



## 狐囃子

保護者の方々もいらっやあって、道具類が運ばれてきた。子どもたちは指示に従い、手分けして練習の準備を進める。毛氈を敷き、太鼓を並べる。「毛氈の向きが逆よ!」とお母さんの声も飛び交う。



揃いの法被に袖を通しハチマキを巻けば、思い思いに練習が始まった。熊木さんの笛に合わせて叩く曲は「屋台」。スピードが早くて呼吸を合わせるのが難しい。既に1～2年続けている子もいれば今回初めての子もいる。隣の様子を目で追いつながり一生懸命合わせようとする。まだまだ不揃いな部分もあるが、次第にリズムが整い、一体感が生まれ出す。

王子狐囃子は、昭和48年、王子銀座商店街の人々が、若手の育成と地域を盛り上げるために立ち上がり、江戸里神楽土師流、四代目松本源之助師匠の手ほどきを受けて完成された。平成5年、王子小学校創立120周年記念行事がきっかけとなり、児童の練習が開始され、進めるうちに難しいところは叩きやすくアレンジしていったという。

児童の多くは母親の勧めがきっかけで始めたようですが、次第に夢中になり「大晦日は叩いてみたい!」と自発的に取り組むように



なった。今ではすっかり教えてもらう立場だと話すお母さんも。

「大人になっても続けたい!」というアンケートの声が多かったように、中高生になっても続けている卒業生は多く、勉強や部活で忙しいなか、土・日に行われる月4回程の練習には顔を出すそうだ。

日常的に音の響きやリズムを体感しながら脈々と受け継がれている「伝統芸能」としての側面と、何より本人たちが楽しみながら夢中になって打ち込めるものとしての魅力がある。少し体験させてもらっただけでもそれを感じることができた。

「代々の先輩方の“思い”を、ちゃんと子どもに託し、豊かな心を伝えたい。“狐の行列”がけしなく、初午、節分祭、700年続く王子田楽…王子の地域に伝わる文化は全部ひっくりかえって大切。いつの時代も種まきを続けていきたい!」代表の高橋さんは語った。



代表 高橋 秀一さん 熊木 かずきさん

## 体験取材を終えて～編集後記～

体験から得られる感覚は驚くほど豊かでした。楽しさも難しさも、子どもたちは各自でしっかり受け止め、想像以上に多くのことを感じ取り、「思い」を持って学んでいるようでした。

二校を訪れ、学校や地域、環境が子どもに与える影響の大きさを目の当たりにするとともに、「E-ル」を通じて多様な選択肢を紹介する意義を強く実感しました。このような情報共有が少しでも役に立ち、未来につながることを願います。

### スクールコーディネーター情報共有ネットワーク

北区スクールコーディネーター(SC)連絡協議会では、地域と連携・協力し、学校を中心とした子どもたちの学びを支援しています。ゲストティーチャーや授業協力のボランティアなどお求めの際は、各学校の身近なSCにぜひご相談ください。区内のSC間で情報の共有を進めています。

ご協力いただきありがとうございました。



平成30年度広報委員会